

栃木県立美術館 令和3（2021）年度事業等評価【概要】

1 趣 旨

令和3（2021）年度県立美術館の運営について自己評価を行い、その結果を美術館評議員会に諮り、外部評価を実施した。

なお、外部評価は平成28年から本格実施し、本年度は美術館中期計画（第2期）に基づく初年度となる。

2 対象期間

令和3（2021）年4月1日から令和4（2022）年3月31日まで

3 自己評価総括

令和3（2021）年度から美術館中期計画（第2期）をスタートさせ、それぞれの目標達成に向けて取り組んだ。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、特に、アートクルーズ来館学校数は目標を大きく下回る結果となった。

学校教育との連携など、引き続き対応の検討を進めるべき課題もあるが、コロナ禍の制約の中で意欲的に事業に取り組み、幅広いファン獲得に向けて努力しており、これらを総合的に勘案すると概ね適正な運営であった。

4 外部評価所見

令和3（2021）年度の美術館の運営状況については、概ね適正に運営されたと判断し、次の項目を意見とする。

① 美術品の充実について

館蔵品については、新陳代謝がないと新鮮味が薄れてしまうので、収集方針に合致した収蔵に相応しい作品があれば、積極的に収集し、その充実に努めてほしい。

② オンライン鑑賞教育の実施について

コロナ禍における移動制限や教員数不足などで従前のような鑑賞教育の実施が難しい中、学校の教室と美術館とを結んだオンライン鑑賞教育は大変好評であることから、事前準備のデジタル化等による省力化を図りながら、多くの学校に普及させてほしい。

③ SNS等による情報発信について

HPやSNSを用いた情報発信について、県民に美術館の魅力をわかりやすく伝えるため、デジタル技術を駆使してより積極的な発信に努めてほしい。



5 取り組むべき課題

- ◆ 開館50周年記念事業開催に向けた取組
- ◆ 学校との連携強化
- ◆ 老朽化した施設・設備等の計画的整備